

ダニエルの書 - 第三百十一号

預言のタペストリーを解き明かす：黙示録から今日の現実へ点と点を結ぶ

Jeff Pippenger

2024-03-12

以前の記事で、私たちは、ミラー派が自分たちが「十人の乙女のたとえ」、ハバクク書2章、そしてエゼキエル書12章21～28節を成就していると認識していたことを明らかにした。エゼキエル書のこれらの節は、終わりの時にこれら三つの預言的箇所が完全に成就するとき、「すべての幻の成就」がもたらされることを示している。ホワイト姉妹もこの現象に言及している。

『黙示録』において、聖書のすべての書は合流し、完結する。ここで『ダニエル書』は補完される。一方は預言、他方は啓示である。封印されたのは『黙示録』ではなく、終わりの時に関する『ダニエル書』の預言の部分である。御使いは命じた、「しかしあなたは、ダニエルよ、このことばを秘め、書を封じよ。終わりの時まで。」ダニエル書12章4節。『使徒行伝』585頁。

十人の乙女のたとえは、2001年9月11日に始まり、間もなく施行される日曜法の時に愚かな乙女たちに対して戸が閉じられるときに終わる、十四万四千人の封印の時において、一字一句そのままに繰り返される。その歴史の期間には、「聖書のすべての書は相会して終わる」に表されているすべての幻の効果が現れる。

前回の記事では、ダニエル書11章40節に表されている外的な歴史の流れを提示するための理解の基盤を築いてきました。同節は、地の獣の共和主義の角に関する政治史を表しています。その歴史は、地の獣の真のプロテスタントの角の宗教史と並行して進みます。私たちは、地の獣の共和主義の角を扱ういくつかの預言の筋道を特定し、それらを1989年の終わりの時に始まった預言の歴史に位置づけています。

1776年に始まり、終わりの時に当たる1798年に終結した地の獣の予言的期間は、今まさに影響を及ぼしているすべての諸線の一つにまとめるために、私たちが用いようとしている線である。1776年から1798年までのこの期間はアルファとオメガの刻印を帯びている。というのも、それは立法行為、すなわち国家が語ることをもって始まり、また立法行為をもって終わるからである。

「国家の発言とは、立法府および司法府の行為である。」『大論争』443頁。

地の獣の主要な特徴は、話すことである。アメリカ合衆国憲法は宗教的・政治的自由への扉を開いた神聖な文書であり、そうすることで、ヨーロッパの王たちとカトリック教会によって何世紀にもわたり行われてきた迫害という「洪水」を飲み込んだ。

そして、蛇は女の後に口から大水を吐き出し、女をその大水で押し流そうとした。すると地は女を助け、地は口を開けて、竜が口から吐き出したその大水を飲み込んだ。
黙示録12:15、16

聖書の預言で第六の王国とされる地の獣の支配の終わりに、それは再び語るが、そのときには日曜法を施行することによって竜のように語る。

また、私は地から上ってくるほかの獣を見た。それには子羊のような二本の角があり、竜のように語った。黙示録 13:11

1798年、教皇権がその力を奪われたとき、地の獣は第六の王国として現れた。

そして、教皇制が力をそがれ、迫害をやめざるを得なくなったとき、ヨハネは、竜の声に呼応し、同じ残酷で冒瀆的な行いを推し進める新しい勢力が台頭するのを見た。教会と神の律法に戦いを挑む最後のこの勢力は、小羊のような角を持つ獣として象徴された。『時のしるし』1899年11月1日

1798年、教皇権が致命的な傷を受けたとき、アメリカ合衆国は語り、そしてアルファとオメガにおいて常にそうであるように、最初の語りは最後の語りを予示していた。Alien and Sedition Acts は1798年に法律として制定され、不法移民とメディアに対処する、終わりの時に施行される法律を予示した。

私たちが検討している1776年から1798年までの期間はアルファとオメガの刻印を帯びている。というのも、その冒頭では独立宣言の「語り」を特定しており、それが1798年の外国人・治安諸法を予表しているからである。その期間の中ほどには、アメリカ合衆国憲法がある。この期間は地の獣の支配を予言的に表している。というのも、それは子羊のように語り始めるが、期間の終わりは竜を表す立法で終わるからである。しかし多くの場合に見られるように、物事の始まりと終わりは正反対に対応する。この期間の最初の道標は最後の道標においても表されており、中間の道標はアメリカ合衆国憲法で、これは十三州によって批准された。ヘブライ語の「真理」という語は、ヘブライ語アルファベットの最初の文字、続く第十三の文字、そして最後の文字から成り立っている。

私たちがいま考察しているこの期間は、「初めであり終わりである方、すなわち真理である方」の印を帯びている。この期間は、聖書の預言における第六の王国としての地の獣の支配の始まりへと至らせる期間を表しており、したがって同時に、聖書の預言における第六の王国としての地の獣の支配の終わりへと至らせる期間をも表している。その期間は、終わりの時である1989年に始まった。1776年から1798年は、1989年から、（外国人・治安（扇動）法によって表されているように）地の獣が竜のように語るやがて到来する日曜法に至るまでの期間に重ねて置かれるべきである。

私たちの研究にもう一つの預言的真理を取り入れるのは有益である。その真理とは、しばしば見落とされる象徴としての「終わりの時」の一要素である。ラオディキア的アドベンチズムは、1798年が「終わりの時」であったことを十分に知っているかもしれないが、彼らの理解は一般にそこで終わってしまう。というのも、あらゆる改革のラインが互いに平行していることを全く理解していないからである。すべての改革のラインは「終わりの時」から始まる。

モーセはキリストを予表しており、その事実をモーセ自身が直接述べ、ペテロも『使徒の働き』でそれを確認している。

あなたの神、主は、あなたのうちから、あなたの兄弟たちの中から、わたしのようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。あなたがたはその者に聞き従わなければならない。申命記 18:15

イエスはモーセに「似た者」となるはずだった。

さて、兄弟たちよ、あなたがたが無知のゆえにそれをしたのだと、私は知っています。あなたがたの指導者たちも同じでした。しかし、神があらかじめすべての預言者の口を通して、キリストは苦しみを受けると示されたことは、このように成就しました。ですから、悔い改めて立ち返りなさい。そうすれば、主の御前からさわぎの時が来るとき、あなたがたの罪は消し去られるでしょう。そして、以前あなたがたに宣べ伝えられたイエス・キリストを、神はお遣わしになります。この方は、万物の回復の時まで、天に受け入れられていなければなりません。これは、世の初め以来、神がその聖なる預言者たちの口を通して語ってこられたことです。というのも、モーセは確かに先祖たちにこう言いました。「あなたがたの神、主は、あなたがたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたがたのために起こされる。彼があなたがたに語ることは何であれ、すべて彼に聞き従いなさい。彼の言うことを聞かないすべての人は、民の中から断ち滅ぼされるであろう。」また、サムエルから後に続く、語ったすべての預言者も、同様にこれらの日々について前もって語ってきました。使徒行伝 3:17-24.

モーセの歴史における終わりの時は彼の誕生であり、それはキリストの誕生を象徴していた。キリストとモーセの双方の誕生に際して、その世代を試すことになる知識の増加があった。彼ら双方の誕生に関するその知識は、エジプトとローマの竜の勢力の双方を、預言によって約束された者たちを殺そうとする企てへと駆り立てた。丘の羊飼いたち、東方からの賢者たちは、終わりの時における知識の増加を理解した者たちを表している。

よく見落とされているのは、終わりの時には二つの道しるべがあるということだ。生まれたのはモーセだけではなく、その3年前には彼の兄アロンが生まれていた。キリストが生まれる6か月前には、いとこのヨハネが生まれた。1798年が「終わりの時」として最も一般的に認識されており、1798年には、暗黒時代を通して（淫婦）が乗っていた獣（政治的機構）が殺され、その1年後には、その獣に乗っていた「女」もまた死んだ。

1989年には二人の大統領がいた。レーガンは1989年の就任式まで在任し、その後、初代ブッシュの政権が始まった。千二百六十年の終わりは、バビロンでの七十年の捕囚によって象徴されていた。また、ダレイオスの甥である將軍キュロスが宴の夜にベルシャザルを処刑したとき、実際の王はダレイオスであった。ダレイオスとキュロスは、その終わりの時の二つの道標を表している。

モーセとアロン、ヨハネとイエス、ダレイオスとキュロス、教皇職と教皇、そしてレーガンとブッシュの間の預言的關係は、正しい方法論で研究すれば、いずれも預言的な光の源となる。ここで指摘したいのは、イエスのいとこであるヨハネは荒野で叫ぶ者の声であり、そのことは、モーセの兄弟アロンがモーセの口となるために彼に会いに荒野へ出て行ったことによって、すでに型示されていた、という点である。

キリストの油注ぎに先立つ三十年間、そして反キリストに先立つ三十年間にも、「声」を指し示す道標がある。キリストにとってそれは、荒野で叫ぶヨハネの声であった。533年、ユスティニアヌスは、反キリストを異端者の矯正者であり教会の頭であると特定する勅令を出した。ユスティニアヌスの勅令は、538年のオルレアン公会議における日曜法の「布告」を準備する「声」であった。

キュロス將軍の軍は、ダレイオスのバビロン征服が差し迫っていることを告げる声だった。

バビロンの城壁の前にキュロスの軍勢が現れたことは、ユダヤ人にとって、彼らの捕囚からの解放が間近に迫っているしるしであった。キュロスの誕生より百年以上も前に、靈感によって彼の名が名指しで述べられ、彼がバビロンの都を不意に奪い、捕囚の子らの解放のための道備えをするという実際の働きについての記録が残されていた。その言葉はイザヤを通して語られていた：

「主はその油そそがれた者、キュロスにこう仰せられる。わたしは彼の右の手を取り、彼の前に諸国を屈服させ、…彼の前に両開きの門を開き、門は閉ざされないようにする。わたしはあなたの前を行き、曲がった所をまっすぐにし、青銅の門を打ち砕き、鉄のかんぬきを断ち切る。さらに、あなたに暗やみの宝、ひそかな所に隠された富を与える。これは、あなたの名を呼ぶわたし、主、すなわちイスラエルの神であることを、あなたが知るためである。」イザヤ書45章1-3節。『預言者と王』551ページ。

予言的な「終わりの時」が二人の証人、または二つの道標によって確立されるのだと認識されるとき、二つの道標のうち一つが、近づきつつある歴史の特定・告知・警告を表していることもまた認識できる。アロン、ヨハネ、キュロス、ユスティニアヌスは、終わりの時に先行する道標を表している。1798年の終わりの時は、1776年から1798年までを表す期間の終わりである。その歴史の中間にある道標は、近づきつつある歴史のための「荒野で叫ぶ声」である。その歴史は、国王または教皇のいずれかによる独裁的支配を退ける出版物から始まり、独裁者の性格を体現する出版物で終わった。中間の出版物は来たる歴史への「警告」を表しており、その警告は、歴史の終わりにアメリカ合衆国憲法が覆されるというものであった。

その歴史の流れは1989年に繰り返され始まり、1789年に荒野から発せられた二百年前の警告が拒絶されるとき、日曜法の時点で終わる。1989年は40節の終わりにおける「終わりの時」であり、1798年の終わりの時と一致する。1989年は1776年と対応し、日曜法は1798年を表す。すべての幻の成就が果たされるその歴史の中間において、2001年9月11日に始まり、1789年の警告に至るまで続く歴史が成就し、憲法は覆される。神は決して変わらないのだから、その中間には必ず道しるべがなければならない。その道しるべは、間もなく到来する日曜法から始まる預言的歴史に対する警告を表すことになる。

1989年は、41節における日曜法へとつながる、40節の「終わりの時」を画する年である。終わりの時の後、しかし日曜法の前に到来した警告のメッセージは、2001年9月11日に与えられた。それは、その歴史の時期の終わりに、2001年9月11日に到来して直ちに抑え込まれた第三の「災い」が、思いがけない不意打ちとして再び襲い、数千の都市が破壊されるだろうと警告している。その破壊が到来すると、サタンはその驚くべき業を開始する

が、その開始は間もなく来る日曜法の時である。

ああ、神の民が、いまやほとんど偶像礼拝に陥っている幾千もの都市に迫る滅びを悟っていたなら！ しかし、真理を宣べ伝えるべき多くの者たちが、兄弟を告発し、断罪している。神の回心させる力が人の心に臨むとき、明確な変化が起こる。人々は、批判したり、壊そうとしたりする気持ちを持たなくなる。彼らは、光が世界に輝くのを妨げる立場には立たない。彼らの批判も、告発も、やむ。敵の勢力は戦いに向けて集結している。厳しい戦いが私たちの前に控えている。固く結束しなさい、兄弟姉妹たちよ、固く結束しなさい。キリストと一つに結ばれなさい。「『陰謀だ、と言ってはならない。…彼らの恐れるものを恐れるな、おののくな。万軍の主を聖とせよ。彼をあなたがたの恐れとし、あなたがたのおののきとせよ。彼は聖所となる。しかし、イスラエルの二つの家にはつまずきの石、つまずきの岩となり、エルサレムの住民には網となり、罟となる。彼らの多くはつまずき、倒れ、砕かれ、わなにかかり、捕らえられる。』」

世界は舞台である。その役者たち、すなわちその住人は、最後の大いなる劇で自らの役を演じる準備をしている。神は人々の視界から消えている。人類の大多数においては、利己的な目的を達成するために人々が結託する場合を除いて、何の一致もない。神は見ておられる。反逆する者たちに関する神の御旨は必ず成就する。神が混乱と無秩序の諸要素にしばしの間、支配を振るわせることをお許しになっているとしても、この世界は人間の手には渡されたのではない。地の底からの力が、劇の最後の大いなる場面を引き起こそうとして働いている。すなわち、サタンがキリストとして現れ、秘密結社で互いに結束している者たちのうちに、不義のあらゆる欺きとともに働くのである。結託への情熱に身を委ねている者たちは、敵の計画を実行している。原因には結果が伴う。

「不法はほとんど極みに達した。混乱が世界を満たし、間もなく大いなる恐怖が人類に臨もうとしている。終わりは非常に近い。真理を知る私たちは、間もなく世界に圧倒的な驚きとして突然押し寄せる事態に備えるべきである。」レビュー・アンド・ヘラルド、1903年9月10日。

1789年に憲法が施行されたことで象徴されたその警告は、第三の天使の警告であり、十四万四千人の封印が始まるときに第二のカデシュに戻る。その警告こそが黙示録18章の第一の声の警告であり、その時にはニューヨーク市の巨大な建造物が崩れ落ちただけでなく、憲法の本質そのものが変えられた。憲法はイギリス法に基づいて起草され、その基本的な哲学は「有罪と証明されるまでは無罪」と簡潔に定義できる。憲法は、いわゆるローマ法を退ける目的で書かれたが、その基本的な哲学は「無実と証明されるまでは有罪」と簡潔に定義できる。

憲法に体现された1789年の荒野からの警告は、2001年9月11日の警告をも示している。そして、燃えさかる建物が文字どおりの成就によってその歴史に刻印を残しただけでなく、愛国者法の可決（いわば）もまたその警告を示していた。

愛国者法（2001年テロを傍受・阻止するために必要な適切な手段を提供することでアメリカを団結し強化する法律）は、2001年9月11日のテロ攻撃の直後にアメリカ合衆国議会に提出された。法案は2001年10月23日に下院、10月24日に上院に提出され、同年10月26日にジョージ・W・ブッシュ大統領の署名によって成立した。愛国者法は、政府のテロ行為

の捜査および未然防止能力を強化し、監視と法執行権限を拡大することを目的とし、さらに「有罪が立証されるまでは人は無罪である」というイギリス法の基本的かつ根本的な原則を否定した。それは今日でも、政府内のエリートによって、法の適正手続、プライバシー、公正な裁判を回避するために利用されている。

次の記事でこの研究を続けます。

この恐ろしくも厳粛な時にあって、私たちの状態はどうであろうか。ああ、教会にはなんと高慢がはびこり、なんと偽善、欺き、服装への愛着、軽薄と娯楽、そして優越を求める欲望がはびこっていることか。これらすべての罪が心を曇らせ、永遠の事柄が見分けられなくなっている。私たちは、この世の歴史のどこに自分たちがいるのかを知るために、聖書を調べようではないか。今この時、私たちのために進められている御業、そしてこの贖いの働きが進行している間、罪人である私たちが占めるべき位置について、理解を深めようではないか。もし私たちが自らの魂の救いをいくらかでも顧みるなら、決然と変わらなければならない。真実の悔い改めをもって主を求め、魂の深い痛悔をもって自分の罪を告白し、それらが消し去られるようにしなければならない。

私たちはもはや魔法のかかった地にとどまってはならない。私たちの猶予期間の終わりが間近に迫っている。すべての魂は自らに問おう。私は神の御前にいかに立っているのか、と。私たちの名がいつキリストの御口に上り、私たちの運命が最終的に決せられるのか、私たちは知らない。ああ、その決定はいったいどのようなものになるのだろうか！私たちは義人のうちに数えられるのか、それとも悪人のうちに数えられるのか。

教会は立ち上がり、神の前で自らの背きの数々を悔い改めよ。見張り人は目を覚まし、ラッパに確かな音を鳴らせ。私たちが宣べ伝えるべきは明確な警告である。神はご自分のしもべたちに命じて言われる。「大声で叫べ、惜しむな。ラッパのようにあなたの声を上げ、わたしの民にその背き、ヤコブの家にその罪を示せ。」人々の注意を喚起しなければならない。これができなければ、すべての努力は無益である。たとえ天から御使いが降りてきて彼らに語ったとしても、その言葉は、死者の冷たい耳に語りかけるのと同じほど効き目がないだろう。教会は目を覚まして行動に移らねばならない。教会が道を備えるまで、神の御霊は決して臨まない。真剣な自己吟味がなされるべきである。一致して忍耐深い祈りがあり、信仰によって神の約束を求め取ることがなければならない。古のように身に荒布をまとうことではなく、魂の深いへりくだりがあるべきである。私たちには自画自賛や自己高ぶりに走る理由はいささかもない。私たちは神の力強い御手の下にへりくだるべきだ。神は真実に求める者を慰め、祝福するために現れてくださる。

私たちの前にはなすべき働きがある。私たちはそれに取り組むだろうか。私たちは迅速に働き、着実に前進しなければならない。私たちは主の大いなる日に備えなければならない。無駄にする時間はなく、利己的な目的に関わっている暇もない。世界に警告を伝えなければならない。私たちは一人ひとり、他者に光をもたらすために何をしているのか。神はすべての人にそれぞれの務めを委ねておられる。誰もが果たすべき役割があり、この働きを怠るなら、私たちの魂は危険にさらされるほかない。

ああ、兄弟たちよ、あなたがたは聖霊を悲しませ、去らせてしまうのですか。あなたがたは、その御臨在に備えがないという理由で、祝福された救い主を締め出すのですか。あなたがたは、イエスがあなたがたのために負われた重荷を自ら負うには自分の安楽をあまりにも愛しているがゆえに、真理の知識もないままに魂が滅びるに任せるのですか。眠りから目を覚まそう。「慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔は、ほえたける獅子のように、誰を食い尽くそうかと捜し求めながら歩き回っている。」 Review and Herald、1887年3月22日。